広報かがみの 1
2021年1月号 第191号 毎月1日発行

シリーズ 第128回

弘秀寺金剛力士像

このたび、中谷の法華山弘秀寺にある木造金剛力士像（県指定文化財）が四年間の修理を終えてお寺に納められ、十一月九日に入仏開眼法要が行われました。

金剛力士は、寺院の山門などに「阿形」「吽形」の二体を一対として安置され、「仁王様」の名でよく知られている仏教の守護神です。この金剛力士像は、像高は阿形像一九三cm、吽形像一九二cmで、元は近衛地区の寺山にあった奥院の山門に安置されていたものですが、現在は木造十一面観音立像（県指定文化財）と共に法華山弘秀寺の大悲殿内に安置しています。『作陽誌』（元禄四年〈一六九一〉刊）の「寺山弘秀寺」の項に、「本尊十一面観音、長さ一丈。金剛神長さ各八尺余」とあり、当時からこの地にあったことがうかがえます。本来は金剛杵という金剛力士の持物を持っていたと思われますが現在は失われています。また、『作陽誌』の記述で像高が現在より約五〇cm高いことから、元は「天衣」という上半身にまとう帯状の衣があったのかもしれません。二体とも後世に両足首から先が補修され、全身を彩色した形跡がありますが、それ以外は制作当時の姿を保っています。

十一面観音像と金剛力士像

阿形像（右）・吽形像（左）

阿形像の解体状況

しかし、長年山門にあったことから、矧ぎ目がゆるんだり、蜂害によって阿形の脇腹に穴があくなど劣化が進行していたため、平成二八年から解体修理を行いました。

仏像を制作する際には、像の内部に制作年代や作者名が墨書されていることがあるので、今回の修理でもこうした発見が期待されたのですが、残念ながら墨書はありませんでした。しかし、解体によって虫食いの被害が内部まで及んでおらず、予想より良好な状態であったことや、目の細かい柾目の良質な木材を用いていたこと、そして、指定当時（昭和五〇年）の所見では、別作りの頭部を枘で差し込んだ「寄木造」という技法であるとされていましたが、実際は頭部と胴部が一本の木で造られている「一木造」であることが明らかになるなど、色々な新しい発見がありました。

また、制作年代は、指定当時は南北朝から室町時代と推定されていましたが、近年の研究者の見解ではそれよりも古い鎌倉時代の作ではないかと考えられています。さらに、この写実的で整った造形は中央の仏師の作である可能性が以前から指摘されていましたが、この時代に奈良や京都で数々の仏像を手掛けた運慶・快慶をはじめとする仏師の一派「慶派」につながる者の作ではないかという意見もありました。しかし墨書銘がなかったため、これらを裏付けることはできませんでしたが、威圧するような忿怒の表情やたくましい体つきは、武家政権である鎌倉時代の仏像の特徴を映し出しているような気がします。

こうした優品がなぜ中谷にもたらされたのかはわかりませんが、『作陽誌』の記述にある、中谷に居住し、現在の弘秀寺の前身である法華山大円寺の造営や八幡宮の勧請を行ったという藤宮王の伝説や、中谷が京都の有力寺社や皇室の荘園であった「富庄」の一部であったことなどが一つのヒントになるのかもしれません。

弘秀寺大悲殿は、毎月十八日午前のみ開扉しています。参拝の際はマナーを守って静かにお参りください。

参考資料：『鏡野町の文化財』『岡山県の文化財（二）』『仏像の世界』『仁王』

協　力：法華山弘秀寺

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/